



主な『肩』の疾患と治療

肩関節周囲炎（五十肩）

加齢に伴い肩関節の袋である関節包が一時的に縮小する疾患です。多くの場合50歳代から60歳代に発症することが多く、痛み(特に夜間痛)、可動域制限(挙上、帯締め動作)を伴います。

通常は数か月で自然治癒することが多いですが、症状が強い場合や疼痛のため、可動運動を長期間避けてしまうと肩関節の可動域制限や運動障害をきたし、なかなか治癒しないことがあります。

鎮痛剤やリハビリテーション、関節内への抗炎症剤やヒアルロン酸の注射にて治療をおこないます。



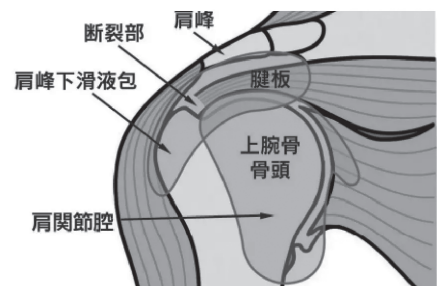
(イラスト：公益社団法人 日本整形外科学会HPより引用)

腱板断裂

腱板は上腕骨と肩甲骨肩峰の間に挟まれた組織であり、加齢変化、スポーツ障害、外傷などにより、損傷することがあります。

治療は疼痛や運動障害(挙上困難)の症状や断裂の程度、経過、年齢、性別、職業などにより変わってきますが、手術をしない保存的治療では投薬、関節内注射、リハビリテーションが中心になります。

症状が強く、保存的治療で改善しない場合は手術を検討します。手術は関節鏡もしくは直視下による腱板縫合術、大断裂や関節自体に変形がある場合はリバーstype人工肩関節置換術をおこなう場合があります。



(イラスト：公益社団法人 日本整形外科学会HPより引用)

石灰沈着性腱板炎

五十肩の一種で50歳代から60歳代の女性にやや多く、肩腱板にカルシウムの沈着を生じ、ある日突然発症し、関節炎のため強い疼痛、運動障害(挙上困難)をきたします。

多くの場合、抗炎症剤の注射や、消炎鎮痛剤の内服にて改善します。

その他、肩に関する症状は多くあります。痛みや日常生活に支障をきたす場合は、早期に整形外科の受診をおすすめします。詳しくは、整形外科へお問い合わせください。

お問い合わせ：整形外科外来 TEL：0721-24-3100(代表)